

話しの場づくりを

宮城県
栗原市社会福祉協議会 佐藤一繁

事例として

- ① お茶っこ会
- ② 「～しながら」のいろんな活動
- ③ 一服会
- ④ 防災マップづくり

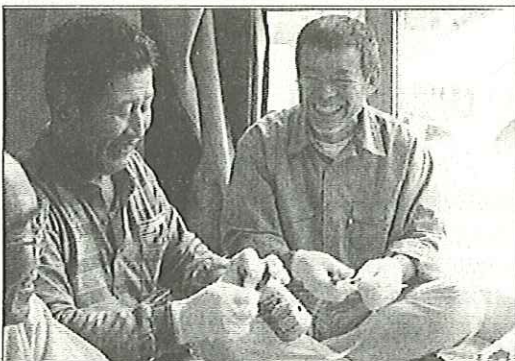
① お茶っこ会

- ・ 地域みなさんが、顔を会わせて、話せる場を作る。
- ・ 体を動かすこと、笑うこと、いろいろ話すこと...
- ・ 地域のボランティアさんに、協力ももらって、みんなで作っていく。
- ・ 無理に盛り上げないで、ゆったり話せる時間を大切にする

「～しながら」の取り組み

話しの仕方はいろいろあると思います。「～しながら」というのもひとつの方法ではないかと思っています。

ひまわりの種の袋詰めをしながら。
お茶のみしながら。
缶ドルを作りながら。
人形を作りながら。



缶ドルを作りながら

6.14発災から1年を迎えるとき。みんなで缶ドル（らんたん）を作りました。その時の言葉「みんなの顔をみたら、OK！そんな気持ちです。」



協力：NPO法人ひまわりの夢企画

ヒマワリの種の袋詰め

ヒマワリの種を袋詰めをしながら話す。被害の大きかった地区の方、それ以外の地域の方、みんな混ざって作業をする。その中で、気持ちの段差が埋まっていくような気がしています。



作業が終わるころには、意気投合

初めて会う人たちがほとんどでも、終わるころには、みんな仲良しになり、仲間意識も出てくる。



元気のリレー ～ひまわりの種を贈る～

袋詰めしたひまわりの種を、被災地に贈る。感謝の気持ちをリレーする。

一服会～災害について語り合う～

- 短めの災害のお話を聞いてもらってから、話し語りをする。
- ひとりひとり一軒一軒いろんなことがあった。
- なかなかそれを話したり、聴いたりする場がない。
- ホントは、区長さんや民生委員さんも話したいこといっぱいある。だけど、自分からそれを話すことはなかなか難しい。そんな部分が見えるようにすること。必要だと思います。

防災マップづくり

- 「話す」ことから、一歩進めて「実際に動く」にシフトしていく。
- 地域の人、区長さんも民生委員さんも...みんな大変だった。だからお互いにみんなで支えあおう。それを具体的な「動き」として、形にしていく。
- 責めるのではなく、みんなで何か作っていけないかということを考える。

協力：NPO法人ディー・コレクティブ

話しの場づくりを

- 栗原の事例が、そのままあてはまるとは思いません。
- 話しをする場を作って、それが「どのように次につながるのか、つなげるのか」。その先は、手づくりではないかと思っています。
- それでも、顔を会わせて、お話しして、聴いて、そうしていかないと何も始まらないと思う。
- 顔が集まると、いろんなアイデアも出てくる。

入り口はいろいろ 目的地はいっしょ

- 方法はたくさんあると思います。
- その地域に合った形があると思います。その地域の歴史や成り立ちを考えながら、その地域に合う形で、進めていくことなのではないかと思っています。
- 大切にしていることは、「話すこと」「聴くこと」「いっしょに汗をかくこと」です。そして、「そばにいる」ということです。
- 目的地は、気持ちの段差を減らして、前に一歩踏み出していけるようにすることだと思っています。